

令和3年度 学校評価報告

1 評価の結果

本校の特徴として、アンケート対象がとても少ないため（保護者が13名、児童が14名、教員5名）、一人あたりの回答の影響がとても大きく、数字に反映される個人の意識やその変化はつかみやすいが、全体の傾向を読み取ることは難しい傾向にある。肯定的評価の割合は、各項目の「よくあてはまる」と「やや当てはまる」の割合を合わせた数字についてパーセントで表わしている。

(1) 児童アンケートの分析結果

全体としては、児童アンケートの31項目のうち、80%に満たなかったのは1項目のみという結果となった。昨年度は、6項目であったことを踏まえると、年度間の比較でも改善傾向が見られる。また、本年度7月の1回目調査と比較しても、80%未満の項目が3項目から1項目に減っており、この1年間学校として取り組んできた成果が現れたと考える。

内容を見てみると生活面では、「掃除に真面目に取り組む」、「交通ルールやマナーを守る」、「十分な睡眠時間を取る」、「宿題を忘れずにする」、「学校に必要な物を忘れずに持って行く」など基本的な生活習慣や規範意識に関わることの多くで7月の調査から向上しており、すべて90%を超えた。

学習面でも、すべての項目で85%を超える児童が肯定的評価をしていて、全体として良好な結果であった。特に、「授業に主体的に取り組んでいる」と回答する児童が95%から100%に向上したほか、「授業がよくわかる」と回答する児童が80%から95%に増えており、授業への主体的な取組の向上が授業での達成感につながっていることが見て取れるのは特筆すべきことである。複式授業の研究を進めたり、地域人材を講師とした体験的な学習に取り組んだりしたほか、コロナ禍にあっても遠隔授業システムを使って他校との交流を図るなど工夫を重ねてきたことが成果となって現れた。

課題としては、「一生懸命教えてくれる」と回答する児童が100%から85%に減少した点があげられる。教職員評価の結果からは基礎・基本の定着を大切にした授業の取組や、楽しくよく分かる授業づくりの工夫などの評価で向上が見られたが、児童評価の結果を受けて現状に満足せず「分かる・できる・楽しい」授業づくりを今後も日々進めていくことが求められていると考えている。

2点目の課題としては、「長橋地区が好き」と答えた児童が95%から85%に減少している点があげられる。昨年度同様に地域行事への参加、地域の海岸清掃や海や山の自然観察活動、地元の方の仕事体験、地域の方への取材活動など、新型コロナウイルス感染症対策の制限下にあっても、年間を通して地域と関わる活動を継続してきたが、残念な結果となっている。地域行事への参加や地域への貢献活動など地域の一員としての意識を大切にしていり積極的に関わる活動を、さらに研究していく。

(2) 保護者アンケートの分析結果

保護者のアンケートにおいても、7月と12月のアンケート集計結果を比べると80%以上の肯定的評価が29項目中16項目から21項目に増えている。食育、健康教育、環境教育、防災・安全教育など様々な分野での教育活動に対し肯定的評価が増えているのが見て取れる。特に本校の立地条件を考えて力を入れてきた、「防災・安全教育」については、100%の保護者が良いという評価であった。学校便りやHP、ブログなどを通じて、日々の教育活動を紹介したり、地域と関わる活動に力を入れたりしてきた結果を評価されたと考えている。

保護者アンケートから見える課題としては、第一に「学校はプログラミング教育やICT機器を活用した教育に力を入れているか」、という質問に対して、肯定的な回答が70%に止まったことがあげられる。昨年度より12%高くなっているが、まだまだ十分とは言えない。一人一台のiPadが導入され授業の中で活用する頻度は格段に増えたが、場面が限定されていたり、対話的・協働的学習につながる場面が十分作れなかったりしたことから、十分な評価にはつながらなかったと考える。今後

も研究・研修を進め、活用の仕方を工夫したり先進的取組に学んだりしてより良い活用方法の模索に努めて、研鑽を積んでいく。

二点目の課題は、児童と保護者の意識の違いである。たとえば「つきたい職業など将来の目標や夢を持っているか」という質問に対して、80%の児童が持っているに対して、保護者は30%に止まっている。また、「スマートルールを守ってテレビを見たりゲームをしたりしているか」という質問に対しては、児童の90%が守れていると回答しているのに対して、保護者は50%しか守れていると回答していない。学校としてキャリア教育や情報モラル教育を推進するのはもちろんであるが、保護者も認識を共有できるよう学校の取組について情報発信を一層進めるとともに、家庭教育の重要性についての啓発に努めたい。また、地域交流をはじめとした社会とつながる学びの充実を図ることで、親子で将来について話し合える機会を増やしたい。

2 学校関係者評価に提示した自己評価の結果

(1) 学校関係者評価を行った期日

令和4年2月2日（水）～2月15日（火）

※新型コロナウイルス感染症対策のため書面審議にて実施

(2) 学校関係者評価委員

鷹巣公民館長、校下3地区自治会長、PTA会長、PTA母親代表（6名）

(3) 提示した内容と学校関係者評価委員からの評価内容

本年度の本校の学校行事を始めとした地域と関わる取組、児童・保護者のアンケート結果(数値)および、結果に対する学校の考察についての資料を配付した。委員からは次のような意見が出された。

①令和3年度長橋小学校学校評価への高評並びに質問

- 児童の評価は、自分のこれまでの取組を素直にしている良い。
- 概ね良い評価が得られており問題はない。今後は小さなこと、少数の意見にも注視してより良い取組を進めてもらいたい。
- 小規模校ならではのメリット、デメリットはあると思うが、保護者アンケートでの否定的な部分については、情報発信やコミュニケーションで改善できるのではないか。
- 集計、分析がしっかりとされていて良い内容であった。
- 教職員アンケートに「あまりあてはまらない」という回答があるのは、なぜか。
(している当然ではないか)
- 児童アンケートの多くの質問に「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」という回答があったのは、さみしい。
- 来年度は、今年度よりも良い回答が増えることを期待している。

②令和3年度長橋小学校学校運営についての意見

- コロナ禍の中にあっても、できる事を考え運営できていたと思う。
- 新型コロナ感染が続く状況の中、職員が苦勞してきていることに敬意を表す。
- 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症により実施できないことも多く大変だったと思うが、地域で協力できることは積極的に取り組んでください。
- 新型コロナウイルス感染症のため多くの行事が中止の中、多くの行事が後半に偏りながらも、今年一年様々な取組を進めてきていて大変良いと思った。
- 多くの学校で授業参観がなくなった今年度であったが、長橋小は人数が少ない分、そういう活動ができるのはメリットである。
- 運動会も他校は平日実施が多かったが、長橋小は土曜日に実施でき、保護者はもちろん祖父母も参観できて、子ども達もうれしかったと思う。

③令和4年度長橋小学校の学校運営への意見ならびに提案

- 少人数の中、教科書の勉強以外の部分でさまざまな体験ができる事は大変良いことであり、思い出にもなると思うので、継続していくのが良い。
- 小規模校として、今後も他校との交流行事を多く取り入れて行ってほしい。
- 特に改善すべき内容はない。
- 継続的な取組を来年度も行うのはもちろんだが、新しい取組も進めてほしい。
- 学校から地域に対しての要望があれば相談して欲しい。地域の中で発信して情報共有していきたい。
- 令和3年度同様に運営してもらいたい。保護者として、できるだけ協力していきたい。
- 来年度もコロナの影響はあると思う。無理のない範囲で楽しく行事等ができればと思う。運動会は今年度同様子ども達だけの競技をお願いしたい。

(4) 委員による評価を受けての令和3年度振り返り及び令和4年度取組の展望

全体として、肯定的な意見が多く、本校の取組の方向性を来年度以降も継続して欲しいとの意見が中心であった。ただ、「小さなことや少数意見も大切に」「否定的な回答がどの質問にもある」という提言にもあるように、改善すべき点はまだある。例えば100%の良い評価であっても、「やや良い」という評価が多い項目については、今後改善の余地がある。学校の強みと弱みを見直し、改善すべき点を洗い出して、より質の高い目標達成に向けて取組を進めていきたい。

また、来年度の取組への提言として、地域との交流や地域の人材活用など、長橋小学校の強みである地域とのつながりを大切にしてほしいとの意見が多かった。新型コロナウイルス感染症の終息は未だ見通せないが、今後も状況を見ながら地域とのつながりを大切にした取組を積極的に進めていきたい。